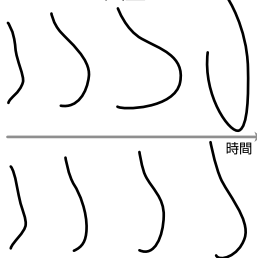


「見えないもの、見たくないもの、見えてもしかたがないもの、見える化」

「借力」谷口一刀の図解塾

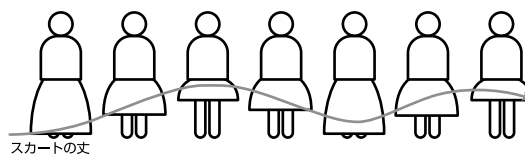
1

おっばいの人生



「谷口君、巨乳は垂れるのだよ」と、昔の上司に厳しく諭されたことがあります。私が巨乳について熱く語っていたときのことです。私が単にバカな可能性がありますが、日常的に経験しにくい、非常に長い時間と非常に短い瞬間は、当たり前ながらまず見えない物にあげられます。

長い時間、短い時間



スカートの丈

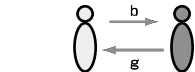
時代の流れ

非常に長い時間軸をとって図解することで、スカート丈の変化パターンが見えたり、また一方、恋愛物理学のように、時間を細かく切り取って図解することで、現象の原因が説明できるかもしれません。

恋愛物理学

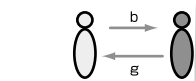
「男女二人が歩いた場合、進行方向は、より好きではない方へと傾く」

男Aの、女Bに対する距離感を「b」とする。①男Aが、「b」の距離をとろうとして近づく。

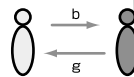


女Bの、男Aに対する距離感を「g」とする。

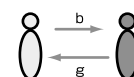
b < g、男Aの方が女Bより距離感が小さい、すなわち、より好意をもっている場合、右の現象が起こる。なお、両者は下に向かって歩いているものとする。



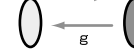
②女Bが、「g」の距離をとろうとして離れる。



③男Aが、「b」の距離をとろうとして近づく。



④女Bが、「g」の距離をとろうとして離れる。(繰り返し)



杉本彩のスカートをめくっても意味がないように、すでに見えているものを「見える化」しても意味がありません。「見える化」は、その対象が「見えにくい」ほど、貴重なものになります。「ここでは「見えにくいもの」を順番にあげて、「どう描くか」という例を挙げていきたいと思えます。まずは「見る対象」についてです。

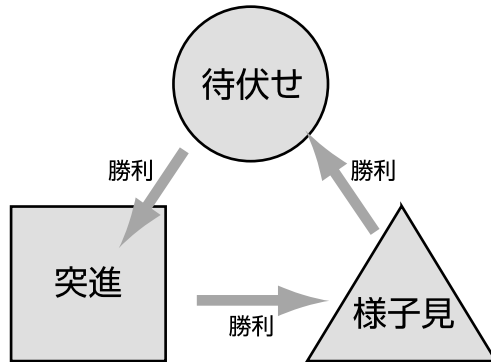
谷口一刀

図解王。バカの脳内に存在する日本地図を描いた『バカ日本地図』（技術評論社刊）など、脳内に存在するさまざまなイメージの「見える化」を追求している。サイト「借力」の管理者。

借力：http://www.chakuriki.net/

「借力」谷口一刀の図解塾 ①

豊臣秀吉の参謀、黒田如水は、部下たちの誰と誰が仲がよい、または悪いか、という図解を描いていたそうです。物事の相関関係は、時間の次に見えにくいものに入るのでしよう。右の図は、私が空手を習っていたときに考えたもので、対戦相手を三つのタイプに分類し、相手のタイプによって自分がどのようなタイプで応じるか、という図です。ジャンケンじゃないか、と言われればそれまでの図ですが。



関係

どうしようもない男
ですが、鷹狩りは抜群

鷹狩りは抜群ですが、
どうしようもない男



関係には、上記のような、それぞれが別々の物である場合と、左のような、一方が他方に内包されているときがあります。これは、書籍「葉隠」の中のエピソードを図解したものです。殿様が鷹狩りを採用する際、評判を聞いたところ、一人は「どうしようもない男ですが、鷹狩りは抜群です」と聞かされ、もう一人は「鷹狩りは抜群ですが、どうしようもない男です」と聞かされたそうです。殿様は、前者を採用したそうですが、言葉では同じように見えても、どちらがどちらを内包しているかによって大きく違う場合があります。

循環

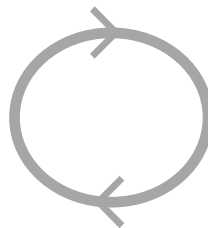
時間と関係を組み合わせると、物事の循環が見えます。コンサルタントはよく悪循環を明らかにしますが、循環を見るにはある程度の視野の広さが必要とされるので、部外者でないとなかなか難しいことです。私がコンサルタントの立場なら方向性や全体最適の重要性を説くでしょうし、私が現場の立場なら「実務で手一杯なんだよ！ この勘違い野郎！」と怒鳴ってやるでしょう。

バカ・スパイラル

もっとバカなのが見たくなる



もっとバカになる



もっとバカな番組をつくる

64ページにつづく

「見えないもの、見たくないもの、見えてもしかたがないもの、見える化」

「借力」谷口一夫の図解塾

②



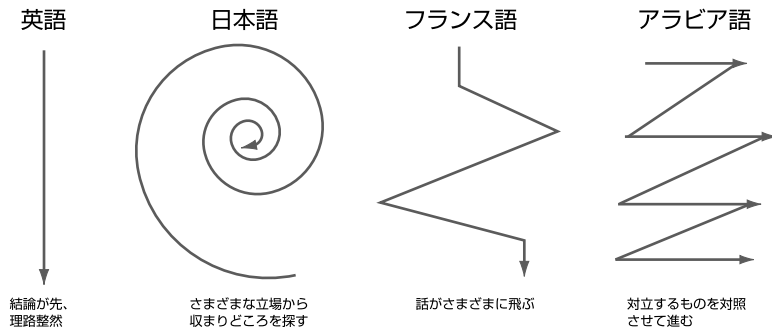
男と女

「リーダーとは認められたエゴイズムである(カレリン)」といった、本質を簡潔に言い表したいいわゆるアフォリズムは印象的です。アフォリズムが印象深いのは、それだけ本質というのが見えにくい物だからではないでしょうか。物事の本質を見つけるには、その対象から切り離しても、その対象の雰囲気が変わらない付属物を、どんどん切り離していくのがよいようです。左は、男と女の体を、究極まで省略して描いてみたものです。単に私が胸とおしりしか見ていない可能性がありますが、男は直線を、女は曲線が特長なのが改めてわかります。

本質

下記は、Kaplanが各国の文章の書き方を概念化したものです。このように、細部を省略して抽象化することで、本質が見えてくるときは多いのではないのでしょうか。

各国の文章スタイル [Kaplan,1966]

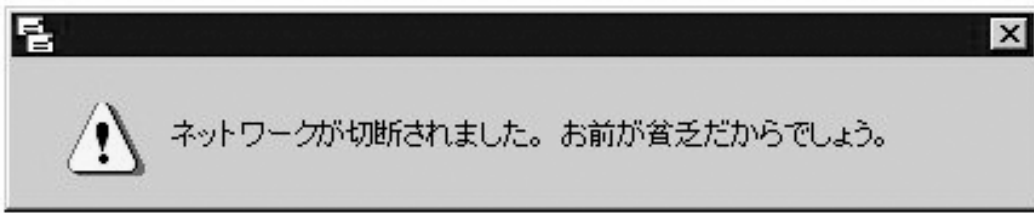


抽象化すると、タトエがしやすくなくなります。表面的にはまったく違うことでも、構造としては似ているものは多いものです。抽象化しては造りが明確になるので、共通点を挙げやすくなります。左記は、農業と戦争が似ているかもしれないな、と描いたものです。

前提

「全米No.1」という映画は、なぜあんなに多いのでしょうか？これは、上映初日を他の映画とズラしているため、初日から数日間のみ全米No.1になる、ということですが、映画のポスターに「いつからいつまで」という前提は小さく書いてあります。このように、前提が違えば内容もまるっきり違ったものとなりますが、多くの場合、その前提は上のように目立たなくされているか、省略されています。このエラーメッセージは、ユーザーが貧乏なことを前提としています。この場合はわかりやすいですが、たとえば、よく街中で見かける「本当の自分を探そう」というキャッチコピーはどうでしょうか？この文は、「本当の自分があると

するなら」ということを前提としていますが、その前提は書かれてはいません。正しく書けば、「本当の自分というものがあるのならば、本当の自分を探そう」という文章になりますが、その前提は証明しようがないので、なんとでも説得力のない文章になってしまいます。怖いのは、意図的に前提を隠してメッセージを伝えることにより、前提となる考えを植えつける、という手法です。たとえば、前述の文を真に受ければ、「本当の自分がある」ということを無意識に納得させられ、青い鳥を一生探し続けるハメになりかねません。このような、見えにくい前提を見えるようにすることによって、惑わされずにすむのではないのでしょうか。



同時であること

「両手で拍手を打ったとき、どっちの手が鳴るのでしょうか？」
禅問答のひとつですが、意味がないことはすぐにわかりますが、一瞬考えてしまいます。人は、情報を他人に伝える能力が非常に発達しています。そしてその伝達の際、最もわかりやすいのは、物事を時間軸で並べ、物語として順番に説明する方法です。しかし、自然の中では、カキ氷を食べて頭がズキンとなったときに足もツツてしまうなど、まったく同時に別々のことが起こる、ということがよくあります。しかし、物語化する習性によって、同時に起こることに弱い、という弱点を持っているのではないのでしょうか。冒頭の質問に一瞬考えてしまうのは、その習性のせいではないかと思えます。なので、同時に起こることも、見えにくいものに入るのでないのでしょうか。

見えにくい「前提」がより強力になったものは「常識」となり、より見えにくくなります。かのアインシュタインでさえ、「宇宙の大きさは一定」という当時の考えから離れることができず、自分の作った方程式がその世界観に合わないの困って、方程式を改変してしまったことがあるそうです。

常識

タモリ倶楽部の名物コーナー「空耳アワー」では、日本語の言葉に聞こえる英語の曲を毎週紹介しています。このように、耳から聞いたことをそのまま聞くよりも、すでに頭の中にある物を聞いていることがよくあります。

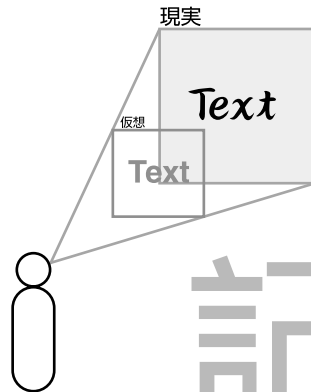
これは「見る」ときも同じで、目と対象物の間には、「記号」が存在します。たとえば、文字を読むときに、一字一字、これは何の字だろう、と注意深く考えるわけにはいかないので、『ひらがなの「う」ならこんな形状』という記号を頭の中に持ち、対象そのものをじっくり見るより、対象がどの記号に似ているかを判断することで、素早く情報の処理をしています。

反対に、アラビア文字など、まったく新しい字を学ぶときには記号は存在しないので、これはそのまま対象物を見ることになります。

なので、見るといっても、頭の中の記号を見るのか、対象を見るのか、という二種類があります。これはまったく違うプロセスなので、分けて考えなければならないと思います。

ベティ・エドワーズ博士が発明した「絵を右脳で描く」という方法は、前述の「頭の中の記号」を取り除いて絵を描く方法です。たとえば、人の顔を描く場合、上下逆さま

に置いた顔写真を見ながら描きます。こうすることで、脳内にある「顔の記号」に影響されず、驚くほど上手に描けます。脳内の「顔の記号」は、印象に影響されて現実より歪んでいます。たとえば、顎～目の距離と、目～頭頂の距離はほぼ同じですが、「顔の記号」では、顎～目の距離をずっと長いと認識しています。これは、顎と目の間に、口や鼻といった印象深いパーツが多いためです。



記号

ここまでは「見る対象」の見える化でしたが、次に「見る視点」の見える化を考えてみます。が、その前に、「対象」と「視点」の間にある「記号」について、少しだけ考えてみます。

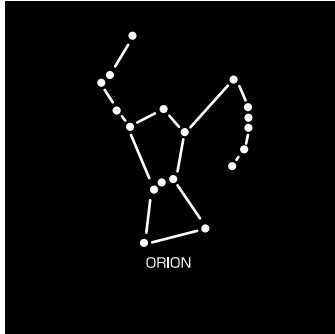
バカ日本地図

～多岐回「東京の便利」の巻～

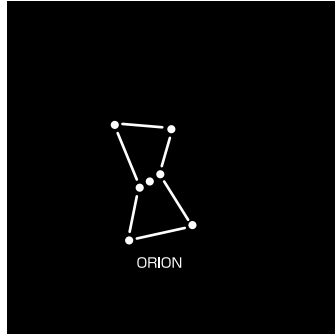


デザイン：上山根祐輔

話を戻しますと、この記号も非常に見えにくいものではないでしょうか。記号は現実そのものよりも抽象的で、ぼんやりしています。この頭の中の記号を描いてみる、というのはけっこうおもしろい余興になります。私は昔、バカが思い描く日本地図、というコンセプトで、現実の日本地図ではなく、人の頭の中に記号としてある日本地図を描いてみたことがあります。作業は単純で、「群馬は知らない」、「富山は山だと思っていた」、「名古屋は県」といった、頭の中のイメージをブログにコメントしてもらい、地図をデザイナーとともに描いていったのです。結果、上記のような地図ができたのですが、バカ日本地図」と名付けたこの実験はなぜか評判になり、悪ノリして本まで出してしまいました。誰でも思いつきそうなのに、見えにくいものだから気づかずに眠っているものはまだまだ多そうです。



賢い人から見たオリオン座



バカから見たオリオン座

星座の形は、見る人の知性に依存します。オリオン座は、意外に星が多い星座ですが、多くの人が右の方が正解だと思っています。ちなみに私もその一人です。同じ星座でも見る人によって違って見えているように、人によって見えているものは当然ながら違います。また違う例をあげて見ます。昔の上司の一人は風俗派で、もう一人はキャバクラ派でした。互いのことを悪く言うのですが、風俗派の上司は、「できもなしなのになぜ金をはらうのだ?」と言い、キャバクラ派の上司は、「なぜ一瞬に金をはらうのだ?」と、互いにまったく理解ができない様子でした。

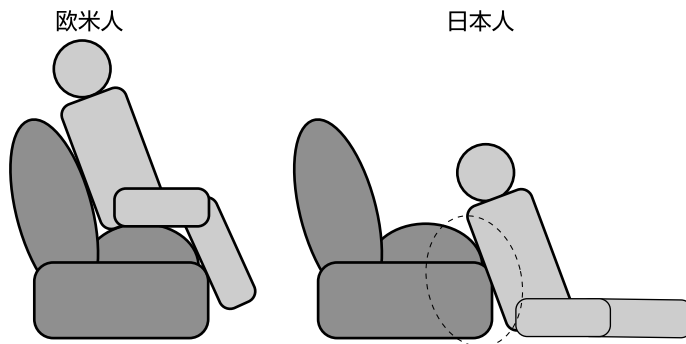
知性

文化

太陽は赤いと思うのは日本人だけだそうです。他の国では、太陽を黄色いと思っているそうで、子供に絵を描かせると、日本の子供は赤く塗るが、他の国の子は黄色く塗るそうです。このように、文化による視点への影響も見えにくいものです。文化の影響は、視点に留まらず、習慣や行動にも強く作用します。この習慣も見えにくいものではないでしょうか。たとえば、日本ではソファを背もたれとしても使っている人が多いですが、ソファは背もたれとしてデザインされていません。

96ページにつづく

リビングにおけるソファの座り方の実情と必要な改善点



日本人向けソファに必要な改善点：点線部分の座りごころ

「見えないもの、見たくないもの、見えてもしかたがないもの、「見える化」」

「借力」谷口一刀の図解塾

3

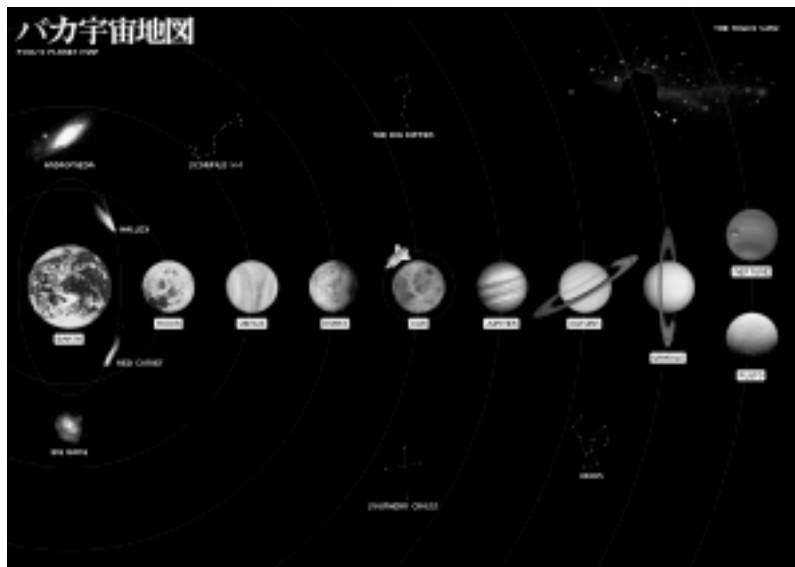
ギリシャの神殿は、人の視点からまっすぐに見るようにわざとゆがめて作られている、という話があります。このように、「まっすぐ」といっても、客観的な基準から見たまっすぐなのか、主観的な視点から見たまっすぐなのか、という違いがあります。この主観と客観を、どっちが重要と思うか、というのは時代によって異なります。

たとえば、「惑星」は「惑(まど)う星」と書きますが、その昔、他の星は北極星を中心に回っているのに、惑星のみが変な軌跡を描くから、迷っている星ということで命名されたそうです。現在では、客観的に見て惑星の公転は非常に規則正しく見えますから、迷っている星、という考えには至らないうでしょう。

時代が進むにつれ、主観から客観へ移るようにも思えますが、「歴史は主観と客観のあいだをいつたりきたりしているだけ」とシヨウベンハウエルは唱えていたかもしれません。

今は客観全盛の時代ですが、もしかしたら、主観の時代が再び来るのかもしれない。たとえば、プログラムのジャーナリズムへの影響は、プログラマーという、各自の主観的な視点が、一枚岩的な客観視点を揺るがしている、とも見えます。

主観か客観か

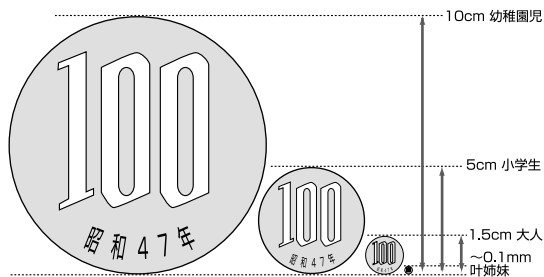


デザイン：上山根祐輔

ところで小学3年生の頃、「太陽が地球の周りを回っている」と言ったクラスメイトがいて、私がせせら笑ったら、先生に「子供のときはそれでええんや」と、ひどく怒られたことがあります。先生は、太陽と地球、視点によってどちらでも回りうると思っていたのでしょうか。ちなみに上記は、バカ日本地図の手法で、バカが思い描く宇宙地図を描いてみたものです。

価値観

「もし100円玉を描いてもらったなら、その大きさはどうなるか」



左記の図は、「貧乏な子と裕福な子にお金の絵を描かせてその大きさを見る」という、史上まれに見る残酷な心理実験にインスパイアされて書いたものです。子供と大人が百円玉を描いたら、その大きさは大きく違うのではないのでしょうか。

このように、物として同じ大きさでも、頭の中での大きさはバラバラな時があります。そして、そのバラつきも、見る事ができません。

並列か直列か

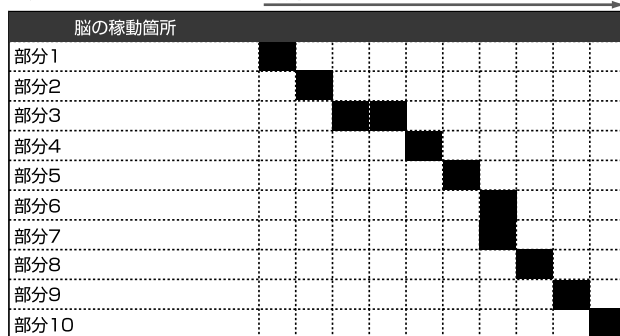
電池の並べ方に並列と直列がありますが、同じように、スポーツなどの体の動かし方にも、並列と直列の二つの体系があります。並列は、異なる箇所を同時に動かす方法で、直列は、順番に動かす方法です。たとえば、野球の投手は、足元から上半身に向かって順番に体をねじって球を加速しますが、ダンスなどでは、できるだけ異なる箇所を同時に動かすことで印象的な演出を行います。

このように、いろいろなものに直列と並列はありますが、脳の使い方にもないでしょうか。たとえば、風が吹けば桶屋が儲かる、といった因果を順番に考えていくのは、直列的な感じがします。一方、夢を見ているときというのは、かなり脳が並列的に動いている感じがします。というのは、夢にはさまざまな登場人物が現れますが、その脚本を書いて喋らせているのはすべて自分の脳です。同時に複数の人間を演じる、というのは非常に器用なこと、直列的な働き方ではとてもできそうにありません。論理的な人と直感的な人、とよくいいますが、論理的というのは脳内の箇所を順番に使って答えをだし、直感とは、異なる箇所を同時に動かして答えを出しているのかもしれない。

■ = 脳の一部分が活動

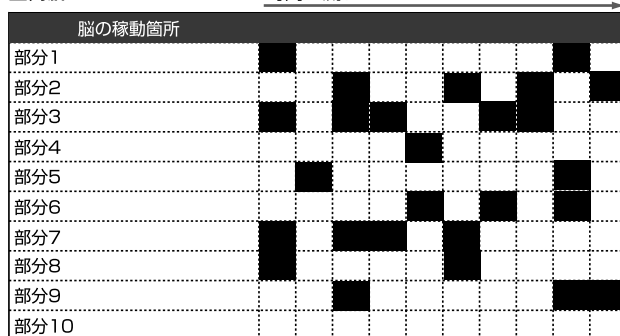
直列脳

時間の流れ



並列脳

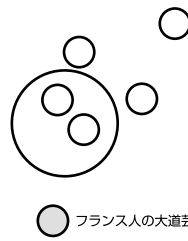
時間の流れ



会社の先輩に「コンドームの避妊率はなぜ100%じゃないのか」という悩みを相談したところ、先輩に「彼女が浮気をするからだ」と言われました。私が「コンドームの性能」という枠内で話していたのに対し、先輩は「彼女の行動」という、私の想定外の枠外で話されています。何かを考える場合、無限に対象を広げては考えられないので、ある一定のフレームの中で考えますが、そのフレームも見えにくいものではないでしょうか。

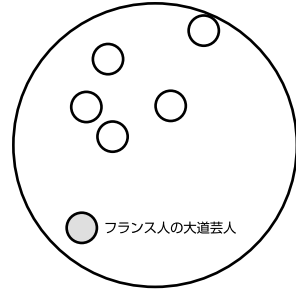
こないだ、フランス人の大道芸人と殴り合っている夢を見ました。まったく訳がわかりません。起きていて意識がはっきりしているとき、記憶の中で意識が及ぶ範囲は狭い範囲内でしょうから、少なくともフランス人の大道芸人は現れません。一方、夢の中ではこの範囲が広がるらしく、フランス人の大道芸人まで含んで思考しているようです。

考えているとき



フランス人の大道芸人

考えていないとき



フランス人の大道芸人

想定内・想定外

意識

「ネ申」は、「ネ」と「申」とも読めるし、「神」とも読めます。このように、どう見えるかはどう意識するかで変わります。しかし、その意識はたいてい無意識で、見えにくいものです。

今年の8月に銀座で行われた「佐藤雅彦研究室展」で、「+」と「x」の画像を交互に見せると、「+」が

クルクルと回転するように見え、そしてその回転方向は、見ている人の意識による、という展示がありました。見る人が、「右に回る」と思えば右に回っているように見え、「左に回る」と思えば確かに左に回って見える、という不思議な展示でした。これも、見えない意識を可視化する試みのようです。

見たくないもの

子供はよく言い訳をします。大人になると、言い訳は自分が創作した嘘であることに気づくのでやめますが、子供はそれが嘘であるとは思っていません。または、もし私が誰かにフラれたとき、事実としては「私が魅力的ではない」ということにつきますが、その事実を隠蔽するために、私は無数の言い訳を創造する自信があります。

このように、自分のことというのは、そもそも見えにくいというより、見たくない、という理由で、見えにくいものではないでしょうか。

石川達三は著作「私ひとりの私」で「人間は誰しも、他人から完全に理解されるということとは有り得ないだろう。誤解さ

れたままで生き、誤解されたままで死んでゆく。結局は孤独なのだ。たとえ誰かが深い心をもって私を理解してくれたところで、私の孤独がなくなる訳ではあるまい。私を知っているものは私だけ。私はひとり切りの私なのだ」と述べています。

これは、自分の心以上に他人の心の中が見えないものである以上、明白な現実ではありませんが、あまりにも冷たい現実で、なかなか受け入れることができないことです。そのため、「この人は悲しい出来事が多かったのだな」とかなんとか理由をつけて、目をそむけてしまいます。

「見る対象」につづき、「見る視点」の話をしてみました。じつは最も見えにくいのは「自分」かもしれません

自分基準

「日本人は鼻が無い」とアメリカ人はよく言います。逆に、日本人はアメリカ人の鼻が大きく見えます。要は自分を基準にしているだけですが、この自分基準というのは、自分にとては都合がいいので、非常に見えにくいものではないでしょうか。

インターフェイスデザインへの応用について

ここまで、見えにくいものについて考えてみましたが、見えないものを見える化することによって、役立つことはあるでしょうか？

私は長年、いかに道具を「使いやすい」にするか「が仕事でしたので、その仕事の中で例を挙げてみます。」「あなたはドアを開けることはできますか？」と聞かれて、「いいえ」と答える人はいないでしょう。しかし、ドアを開けるのに手間どることはあると思います。それは、押すべきドアを引いてしまったり、横にスライドすべきだったのに引いてしまったり、予想した構造と実際の構造が違ったときに起きたのではないのでしょうか。

何かを操作するとき、人はあらかじめ対象の構造を頭に予想します。その像をインターフェイスデザインの世界では「メンタルモデル」と呼びます。このメンタルモデルと、実際の構造が異なると、使いにくいと感じます。反対に、このメンタルモデルが実際の構造に近いときに「使いやすい」と感じられ、ぴったり一致すると、何も考えずに使えてしまうので、「使いやすい」とすら感じられず、究極には存在すら意識されなくなります。このように「いかに気配を消すか」を追い求めることが、インターフェイスデザインの世界です。(インターフェイスデザインには、「気配を消す」品質

保証の面と、演出の面があり、演出の面はこの記事では書きません)メンタルモデルは、操作する対象物の特徴によって想起されるため、どのような特徴を持たせると、どういったメンタルモデルができるのか、というのを知るのが、使いやすいさを学ぶ基本となります。



イラスト：田中成憲

とはいえ、メンタルモデルは、要は左記のようなイメージの一種なので、なにも難しいものではありません。ユーザーがイメージすることに注意しよう、という、デザイナーなら頭の中で行っているなんとも当たり前のことです。メンタルモデルうんぬん、というのは、このイメージを可視化することによって、更なる改善を行うことを目標として発達したものです。

また、インターフェイスは、操作する人がどのような状態にあるかという文脈も、重要なことで可視化しようとしています。たとえば、忙しい状況下では複雑な判断はできないので、簡易なインターフェイスが適しています。たとえば、信号が右記のようなものであれば、事故が多発するでしょう。逆に、時間に余裕がある場合は、簡易すぎると物足りないかもしれません。このように、ユーザーがどのような状況によって適切なインターフェイスが異なるので、状況を可視化することはとても役に立ちます。

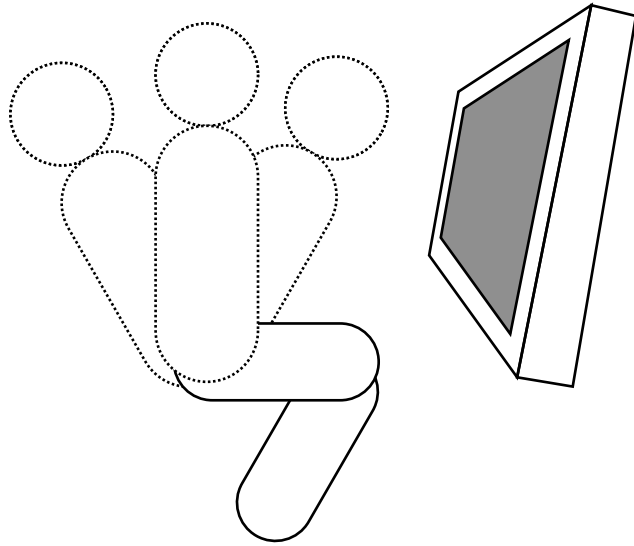
多機能信号



情報設計時に想定するユーザーの座り方

目的意識弱い< >目的意識強い

見る ブラウズ 探す



たとえば、ホームページを作るときに、そのホームページのコンテンツが、映画のように眺めるものなのか、本のように調べるものなのか、機械のように複雑な操作をするものか、という文脈によって、デザインの仕方が異なるでしょう。

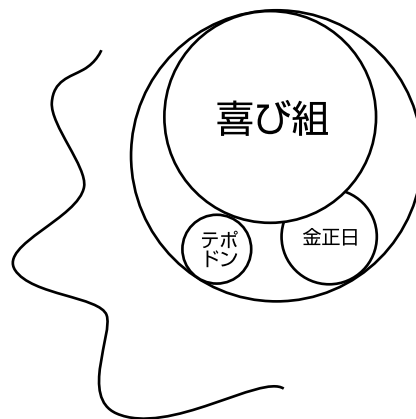
眺めるものだったら、操作項目は最低限で、ある程度自動的に操作が行われる方がいいでしょうし、調べるものだったらある程度以上の操作要素は必要でしょう。

上記の状況の可視化と、さらにユーザーがどういう人か、という可視化も行います。たとえば、「北朝鮮」というキーワードで連想するものは、男性と女性では異なるでしょう。下記の図は冗談ですが、インターフェイスの世界ではさまざまな可視化が行われています。

日本人女性からみた北朝鮮のイメージ



日本人男性からみた北朝鮮のイメージ



私は、インターフェイスデザインの世界にずっといたため、常に見える化の作業をする機会がありました。結果、見える化をするのが習慣となり、日常でも遊びで見える化をする癖がつき、しまいには妄想がフツフツと勝手に浮かびあがってきて、変態と呼ばれるまでになってしまいました。この記事に載せている図は、そんな妄想の一部を描いたものです。

「借力」谷口一刀の図解塾 ③

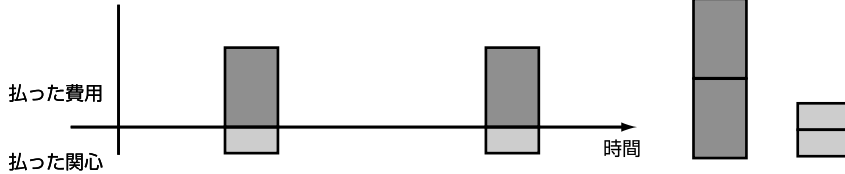
インターフェイスはともかく、他にも見える化は使えないでしょうか。ために、「男性から女性への効果的なプレゼント方法」を考えてみます。「男は火星から、女は金星からやってきた」という本の中で、心理学博士ジョン・グレイは男女間のプレゼントについて、「加点方式の違いから『してあげたこと』と『してもらったこと』のギャップが生じている」と指摘しています。

博士によると、男性は、プレゼントが高価なほど、「してあげたこと」が多いと感じます。一方、女性は「いかに自分に関心を払ったか」によって「してもらったこと」を判断するため、価格よりも、頻度によって満足度が高くなりやすいそうです。

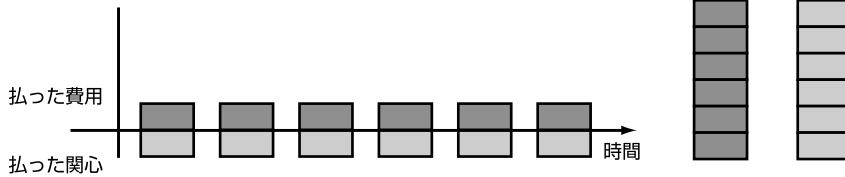
これを図にすると、下記ようになります。Aの場合の方が、両者のギャップが大きいのがわかり、Bのようにマメにプレゼントする方がよいとわかります。

女性に贈るプレゼントへの応用

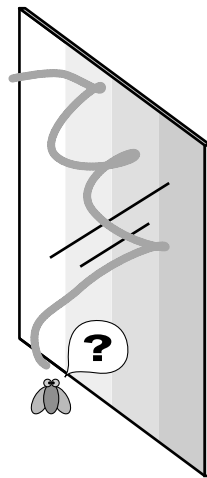
A 一極集中型



B コツコツ型



あとがき



ずらっと見えないものを挙げてみましたが、この他にも見えないものはいっぱいあるのでしょうか。虫がよくガラスに何度もぶつかっているのを見かけることがあります。私たちも、見えないものに頭をよくぶつけているのではないのでしょうか。すくなくとも私は相当ぶつけている自信があります。

この見えないものを見えるようにすることで、なんとかよりぶつからないようにしていきたいものです。